

平成24年3月23日

政務調査報告書

栗山町議会議員 鶴川 和彦 様

栗山町議会議員 藤本 光行

このたび、政務調査のため出張しましたので、次の通り報告します。

政務調査班8名は、2月15日から17日にかけて自治体によるクリーンエネルギー導入先進地である岩手県葛巻町、全国で人口が一番多い村である滝沢村を訪問し、地域活性化や他自治体議会の取り組みなどについて視察研修した。

「ミルクとワインとクリーンエネルギーの町」葛巻町

東北一の酪農郷である葛巻町は酪農と林業を中心に町が発展してきた。そのなかで平成9年、海外エネルギー会社から風力発電建設の打診を受けてから議会や町民の意識が高まり、平成11年葛巻町新エネルギービジョンを策定し同年風力発電に取り組んだ。それからは自然との共生という理念のもと次々と新エネルギー事業に取り組み、より大規模な風力発電施設の建設や中学校へ太陽光発電の導入とそれに伴う環境教育の充実、家畜糞尿によるバイオマスプロジェクトや木質バイオマス発電などエネルギー自給のまちづくりを進めている。

「盛岡市のベットタウンで人口日本一の村」滝沢村

人口54000人なのに村という滝沢村は人口が昭和50年の16000人から40年間で約3倍に伸びるなど大都市のベットタウンとして急速に都市化した自治体である。議員定数も20名であり現在市制移行に向けて準備を行っているということである。議会活動、改革も活発で新成人議会の開催や議会から全戸に対して住民アンケート調査を実施するなど民意をくみ取る積極的な活動を行っている。

視察を終えて、

葛巻町では先進的に新エネルギーの導入に踏み切ったことで、結果として様々な補助事業の活用ができたり、研究機関や企業の試験施設の誘致に成功し、ひいては観光、視察者が倍増するという効果を上げ町の活性化がなされた。自然や環境に優しい事業への取り組みが次の時代へは大切だと感じる一方、町活性化には戦略が大切であると感じた。

滝沢村議会との交流では議会改革や、自治基本条例制定に際しての議会の関わり方などについて意見交換を行った。議会活動の中には先に述べたように参考になる活動が多々あったのでこれからの活動に生かしていきたい。